

受託の視点からみた 目録業務マネジメント

国立情報学研究所ワークショップ
2008.12.4.

株式会社図書館流通センター
学術情報ソリューション・長澤正樹

1994年以来約420万件のNC登録を受託してきて今、

直面していること (1)

● 価格？競争

○ 安い方がいいことはもちろんですが

入札価格の実例 (2008年8月)

5万冊の和・洋書ヒット分のみの
遡及登録 (現地)

業者	見積単価
	和・洋書
N社	¥106
TRC	¥118
A社	¥140
B社	¥198

13万冊弱の和・洋書・目録カードから
のNC登録(目録カード引上げ)
30%は現物確認が必要

業者	推定見積額
	和・洋書
N社	¥120
F社	¥170

5万冊強の和・洋書遡及
登録 (図書引上げ)

業者	見積単価
	和・洋書
F社	¥148
N社	¥165
TRC	¥174

1994年以来150以上の機関でNC登録を受託して今、

直面していること (2)

- 仕様・見積要件が”明朗”？

- 例1、

- 例2、

- 派遣感覚〔人件費 ↔ 件数精算〕

- 「“司書有資格者・目録業務経験者”を配置してくれれば作業詳細は図書館で指示します！」

委託？ 派遣？

- 「そこそこのレベルの経験者を配置し、図書館職員が管理する」
なら = 派遣

- or “偽装請負”



問題点

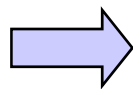
- “司書有資格者・目録業務経験者”という条件
 - その地域で、NC登録経験者で、フリーで
 - 短期(数ヶ月から1年)の業務に就くことができる人
 - 時給は？

¥100/件で受ける仕事



100件登録して¥10,000.-(/日)

しかも 受託(派遣)会社の”管理費”が必要
作業担当者にはいくら？



目録作成はそういう業務？

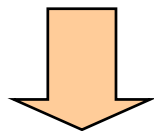
- 管理経費を安くすれば、安く受託できます
- あらためて “委託”での管理業務、とは？
= 登録等作業の結果チェックと評価が必須



マネージメント

その1 受託サイドの業務管理

- 仕事量が不安定で、常勤雇用を抱えることが困難な現実



効率化のための努力としても



- 研修して、その都度配置
- 初めは皆、初心者
初心者に教え、経験を積ませ、管理し、
- 実作業の中でしか人は育ちません

言語能力・勤務(場所と時間)条件
それからセンス

- これら業務全体のコントロールが”品質管理”

(これらを想定した価格設定をご理解ください)

- 初心者→中堅作業→チェック者・管理者へ

人を育て、経験者を作り、目録・整理業務を支えること

目録作成の“危機”

アウトソーシングが進む、未来に

目録を操る専任担当者が育つ状況が果たしてあるのでしょうか？

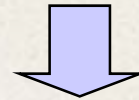
異動・人事政策による専門職の不在

業務の質をどう維持するか

後継者をどうやって育成するか

アウトソーサーが目録担当者を育み
品質(精度とスピード)を競う、
ためには

仕様書があり、点検評価を行うことで

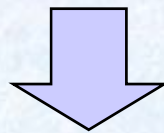


専門的な業務を管理できるマネジメントの力が

アウトソーシングの目的

一定レベルの目録を、使用に耐える検索ツールを構築すること
-----早く・安く・効率よく-----

- 目的が達成されなければ、結局は
「高く無駄な」買い物
- 予算 = 投資 効果の評価・判断こそが
アウトソーシングのマネジメント



目的が明確 = 「最初に、必要な成果物・効果を明確にイメージできる」
方法の共有 = 「そのために、どこに一手間かければ省資源・省エネルギーか」が
委託・受託双方で共有されているでしょうか？

従来の方法を見直すことが必要かもしれません

マネージメント

委託サイドの業務管理(1)

● 仕様書という方法

- 具体的な作業内容・レベル【求める結果と責任範囲】の明示が必要
- 見積が可能(受託者) = 予算化が可能(法人・理事者への説明・説得)
 - 「現在のコストと効果」vs「アウトソーシングのコストと効果」を測ることができる-----もしかしたら現状分析？
 - 見積の適否 = 経費がわかることが必須でしょうか。
 - 「アウトソーシングによる効率化は期待できる」
しかし極端に安くなるとしたら？

● 仕様書の記述 - 具体的であること

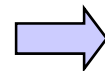
- 抽象的な表現ではなく業務内容が明示されているが、マニュアルで仕様書に変えることはできません。
- ものの流れ、業務の流れ、データの流れ、帳票の流れをフローチャータ的に示してください。
- 求める水準・作業レベルを示してください。
- 業務範囲と責任分担を示してください。



マネージメント

委託サイドの業務管理(2)

- 結果で評価する = "合意されていた目的"は達成できるのか



見積り合せ・入札による決定・作業開始は結果の「見込み」?

- [共通の基準]があればときどきの状況をチェックできる筈です。

- 予定どおりに進んでいるか →

進行状況を見ます

- ミスはないか、理解不足・考え違いはないか →

抽出チェックを行います

チェックした結果にもとづく、業務(改善)指示とその結果のチェックも必要

→もし問題があれば是正する、この際、受託管理(受託者の業務方針・受託体制)を見ます

→是正できなければ契約解除もあってよいのでは

これらの結果

想定した品質レベルが実現でき

チェックと指導の経費も含めて

早く・安く が達成され、そして

目録業務効率化、検索・同定精度の向上 が
次の図書館サービスの拡張に繋がって